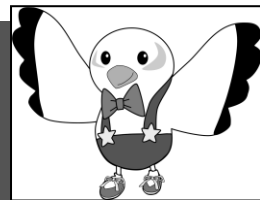


～子供に夢や感動を！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 2 月 13 日
<第 10 号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318



「東京教師養成塾」は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員として必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について知っていただくための通信です。

●第 17 回ゼミナール「子供の命を守るために～食物アレルギーのある子供への対応」

1 月 9 日（土）に、かずえキッズクリニックの川上 一恵 院長を講師としてお招きし、第 17 回ゼミナール「子供の命を守るために」を実施しました。塾生はもちろん、子供たちが命の大切さを理解し、生命尊重の姿勢を育てていく意義を理解することをねらいとしました。

講義では、アレルギーの種類や食物アレルギーの症状や原因となる食物、アナフィラキシー症状が出たときの対応等を教えていただきました。また、VTR や「食物アレルギー緊急時マニュアル」を参考に、学校での対応訓練の方法について知り、エピペンや AED の使用方法についても学びました。

<塾生の感想>

- ・ 児童・生徒がどのようなアレルギーをもっているのか、どのような症状が出るのかを把握しておくことが命を守ることに繋がることが分かった。エピペンや AED の使い方、緊急時の対応の仕方など、いつ事故が起こっても対応できるようにしておくことが大切だと学んだ。



- ・ 教師は命を預かっているのだということを改めて実感した。指定校でも、食物アレルギーのある子供は多くいる。毎月アレルギー会議を行っており、対策を取っているが、何かあったときの対応としては、自分にはその知識がないことを反省した。対応訓練などを通して焦らずにできるようにしていく必要があると感じた。
- ・ 指定校でも万一のことに備えて緊急時に必要なマニュアル、AED の場所等を知っておく必要があると感じた。また、子供たちの命が教員の対応で左右されてしまうことを常に念頭に置き、冷静な対応ができるようにシミュレーションや情報の共有を徹底していきたい。

●第 7 回講義「若き教師に期待する～これから教師になる皆さんへ～」

1 月 23 日（土）に、東京都教職員研修センター安間 英潮 研修部長を講師として、第 7 回講義「若き教師に期待する～これから教師になる皆さんへ～」を実施しました。今回の講義は、東京都の教師として求められる資質・能力についての理解を一層深め、教師として今後の見通しをもつことをねらいとして行いました。

安間研修部長からは、働くことの意味、学生と社会人との違い、教師としてプロ意識をもつことなどの話がありました。特に、子供たちとの初めての出会いの場面で最初に伝えたいメッセージや、初めての授業に向けての心構えなど、これから教師になる塾生に対するエールが送られました。

<塾生の感想>

- ・ 今回の講義を受けて、これから教師となる上で「サービスを受ける側からサービスを提供する側へ」と立場を変えていく上で心得ておくべきことを再認識した。プロの仕事である以上、しっかりと事前に仕事の準備をしておく必要があることを学んだ。



- ・ いつまでも学生気分ではいけないことを学んだ。社会人としての義務と責任を改めて考えることができた。教員は児童の最も身近な社会人である。社会人としてのメリハリをもち、手本となれるような態度を取りたい。また、児童一人一人と真剣に向き合い、働くことの意味を考えながら、教員としての第一歩を踏み出したい。
- ・ 「働くこと」とは、他者のために自分のできることを頑張ることであるという話を聞き、働くことへの意欲が湧いた。また、子供たちへの具体的な対応や言葉掛けを教えていただき、4 月から生かしていきたいと思った。プロ意識をもって、目の前にいる子供たち一人一人を笑顔にできるようにがんばりたい。

●特別教育実習の様子 ～ある塾生の日～

塾生は、配置先の養成指定校（都内 34 区市 84 校、特別支援学校 13 校）において、約 40 日間、校長先生をはじめとする全教職員から、教育者としての自覚や責任、各教科等における実践的な指導力、児童・生徒への柔軟な対応力や学級づくりのための具体的な方法等について指導を受け、学ぶことができました。

北島塾生の1月15日の実習内容

朝の会	
1校時	国語
2校時	理科
休み時間	
3校時	理科
4校時	学級活動
給食指導	
休み時間	
5校時	図書
6校時	総合的な学習の時間
帰りの会	

実習のまとめの時期にあたる1月からは、一日学級担任の実習を行いました。学級担任として一日を過ごすことを通して、見通しをもって指導に臨むことや、学級全体を把握した上で、一人一人の児童・生徒へ対応することの大切さを学ぶことができました。

羽村市立羽村東小学校で実習を行った北島莉絵塾生に、一日担任をした様子を振り返ってもらいました。

【児童との関わりについて】

朝は笑顔で目を見て挨拶をすることによって、児童の様子や体調の確認をすることができることが分かった。気になる児童には、一日の中で適宜声を掛けながら様子を見ていくことが大切であることを学んだ。休み時間や給食指導、清掃指導の時間では、授業とは異なる児童の一面を見ることができた。宿題の添削などもあるが、児童との関わりに多くの時間を設けることが大切であると感じた。

【授業実践について】

理科室や多目的ホールでの授業実践を行った。45分の中で整列から教室までの移動も行わなければならないため、より綿密な計画と児童に対する明確な指示が大切であることを学んだ。実験があるときは予備実験をすることをはじめ、どれだけ授業準備ができたかが重要であると感じた。

【今後の抱負について】

担任として児童と関わることで、自らが教師として大切にしたいことや育てたい児童像に気付くことができた。4月から担任として学級づくりを行うために、教師としての軸を明確に、より具体的にして、児童が安心できる学級をつくるようにすると同時に、継続して授業力の向上のために努力し続けたい。



【連載シリーズ コラム⑧】

◆自信と誇り、そして謙虚さをもって◆

東京教師養成塾教授 濱 勝

教師としてのスタートが目前に迫ってきました。今は、期待と緊張、不安、いろいろな気持ちが入り混じった複雑な気持ちだと思います。東京教師養成塾での1年間の学びは、決して楽ではなかったと思います。大学の学業との両立、特別教育実習での授業実践、児童・生徒や学校職員とのコミュニケーション…どれをとっても、入塾前に考えていたよりも現実は厳しかったというのが実感だと思います。

しかし、この1年間の学びや体験は、大きな財産として皆さんの中に確実に蓄積されています。4月からの教師生活は、これまで以上に厳しい場面に直面します。そんな時には、これまでの学びや多くの体験を糧として困難を乗り越えていってください。

修了生となる皆さんに望むことは次の三点です。

①東京教師養成塾で身に付けた力を発揮する

1月に、昨年度の修了生が、ある市の教育研究会で社会科の研究授業を行いました。新規採用者が、自ら手を挙げて代表の研究授業を行うという意欲と、しっかりした学級経営を見て、その成長の大きさに拍手を送りました。これまで、実践的な指導力を身に付けるために多くの授業実践を経験しました。もちろん、1年間だけで十分な力が身に付いたわけではありません。東京教師養成塾で学んだ土台の上に、これからの実践で得たものを一つずつ積み重ね、授業や学級経営などの指導力を磨いていってください。

②自己の教育観を創っていく

「サービスを受ける側からする側へ」という安間研修部長のお話がありました。社会人として、また教師としての自覚と責任、誇りを忘れずに、自分は「どのような教師になるのか」「教育とは何か」という自己の考えを、創っていってください。確かな考えをもつことは、確かな生き方につながります。

③「この先生に来てもらってよかった」と思われる教師になる

学校は皆さんを待っています。教職員、児童・生徒、保護者、地域の方々、誰もが新しい先生に期待しています。「挨拶は相手よりも先に」を実践し、明るく元気に、学校に新風を吹き込んでください。仕事を待つのではなく、率先して見付けて動けるような「気配りができる人」になってください。

◎東京教師養成塾第12期修了生として、自信と誇り、そして謙虚さをもって教師生活の第一歩を踏み出してください。私たち皆が期待しています。応援しています。